Management Club Report

Apr.2020/Vol.208

Monthly Opinion ≪上質コミュニケーションと幸福度≫

前野隆司先生の著になる『幸せな職場の経営学』（小学館 2019 年 6 月刊）に掲載されていた幸福度チェックを活用し、何軒かの歯科医院での院内研修において自己評価による幸福度を測定してきました。別々の医院で何度も試行していくうちに分かってきたことが幾つかあります。

それは、心の充足を継続的にもたらしてくれる Well-being と言われる幸福感を高めるためには、社会や人々の役に立つような仕事をどのように行うのかに深く関わっているということでした。

職業に貴賤はありませんが、歯科医院で働くということは、他の多くの職種と比べても社会や人々の役に立つという点では、極めてダイレクトにそれを実感することができる職種です。

それは、歯科医師や歯科技工士、歯科衛生士といった直接の技術職に限らず、サポート役の歯科助手や滅菌担当、受付や事務職に至る幾つかの職種すべてにわたって平等に与えられています。

即ち、歯科医療従事者は基本的には社会の要請に応えることができ、人々から感謝を受けられる立場にある恵まれた環境下にあると考えるべきです。にもかかわらずあまり幸福感を抱けていない人が存在するのは何故なのか？そのあたりの究明を、幸福度の測定結果から述べてみたいと思います。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大はいつになったら歯止めがかかり先の光明を見出すことができるのか、未だ混沌とした状況下、多くの歯科医院でも診療の縮小を余儀なくされています。そのような中で感染症対策研究者でもある歯科医師の河野雅臣先生から、『ポストコロナを見据えて』と題した論文を特別にご寄稿を戴きました。この過酷な現状を乗り越えた暁に、この体験をどのように生かして行くのか、共に考えて参りたいと思います。

1 幸福度はセルフマネジメンによって高められる

歯科医療従事者の幸福度を下げている因子

これまで歯科医療従事者の幸福度チェックを 8 歯科医院で行ってきました。程度の差はあれそこに共通して見えてくるものは、幸福度を高める因子と低める因子がほぼ同じだということです。